

第七次甲府市総合計画説明会 会議録（富士川地区）

日 時	令和8年7月15日（水）午後7時00分～午後8時10分
会 場	オズプリンティング富士川悠遊館 菊水ホール
参 加 者	70名（市長等及び関係職員含む）
次 第	1 市長説明 2 意見交換 3 地区からの挨拶
意見交換記録	
質問	・地域活動の活性化と高齢者の福祉施策について 富士川地区は高齢化率が40％台に入り10年が過ぎた。昨年1自治会が「高齢化により役員のなり手がいない」との理由で解散した。地区役員や各団体員の高齢化、次世代の担い手不足がある中で、住民の地域活動をより活発に行うために、市はどのようなことを考えているか。 また、高齢化率が高い地域において、高齢者が安心して元気に暮らすために、どのような福祉施策があるのか。
樋口市長	人口減少や少子高齢化の進行、ライフスタイルや価値観の多様化などを背景に、各地域においては自治会の担い手不足や役員の高齢化など、様々な課題が生じており、地域活動の持続可能性の維持・向上を図るためには、自治会活動の負担軽減や新たな担い手の確保など、地域活動を支える環境づくりを進めるとともに、高齢者の皆様が自分らしく健康で安心して暮らせるまちづくりを進めることが大変重要である。 自治会活動の負担軽減については、昨今のデジタル技術の進展を踏まえ、パソコンを使い簡単に文書の作成や表計算ができるよう講座を開催するとともに、スマートフォンを活用した情報発信など先進的な取組を行っている地域への支援を行う中、その取組内容を他の地域へ波及するよう努めてまいりたい。 また、新たな担い手の確保については、企業や学生などがそれぞれの知識やノウハウを活かして地域活動に参加する「あつ活サポーター団体登録制度」を創設し、自治会との連携を支援することで地域活動の活性化につなげている。 さらに、中長期的な視点に立ち、高校生や大学生を対象とした「協働のまちづくり」に関する出前講座を実施し、若い世代

質問	が地域活動や地域課題について学ぶことにより、地域に関心を持つ機会を創出しているところである。 次に、高齢者の皆様が安心して元気に暮らすための施策については、高齢者福祉施策等を総合的に推進するための「高齢者いきいき甲府プラン」のもと、介護保険制度等による相談・サポート体制を確保しながら、東・西・南・北・中央の5つの日常生活圏域それぞれの人口や高齢化率を踏まえる中で、介護予防等の施策の推進や、地域密着型のサービスを提供できる体制を整備している。 さらに、健康寿命の延伸に向けては、栄養の偏りや筋力の衰えに気付くきっかけとなる取組を行う「高齢者食育元気会」を地区組織のご協力をいただきながら実施しているほか、75歳以上を対象として、測定によりご自身の体の状態を知り、運動・栄養・口腔などの視点から医療専門職が健康教育と相談を実施する「健康づくり同窓会」や、お口の健康や栄養に関して学んでいただく「歯つらつ歯っぴーキャラバン」を、各地区からの要望に応じて開催しているところである。 また、富士川地区においては、三団体合同会議である「菊水会」や三世代ふれあい広場、ほうとう会といったふれあい交流事業が定期的開催されるなど、人や地域のつながりを保つことで、フレイル予防や健康寿命の延伸にも寄与されていることに、改めて感謝申し上げます。 今後においても、地域の実情を踏まえる中で、地域の皆様と一緒に各種施策を展開する、まさにコラボレーションによるまちづくりを進めてまいりたいので、引き続きご支援・ご協力をお願いする。 ・災害時における分散避難について 先日の地震の際は市長自ら各地域の避難所開設にご尽力いただき感謝している。大事にならずに済んで良かったと思う。21世紀に入り四半世紀が過ぎ、地震の頻発化や大規模な風水害が多くなったと感じる。昨年、富士川地区唯一の避難所である悠遊館にフリーWi-Fiが設置されたことに感謝する。 災害時の避難は、水平避難、垂直避難、分散避難があると聞いている。悠遊館に水平避難することになると思うが、入りきれない場合の分散避難は、被災の程度によるケースバイケース
-----------	---

危機管理監	かと思うが、どのように考えているか。 近年、自然災害が激甚・頻発化しており、本市においても、先月末に台風が接近する中、震度５弱の地震が発生したところであり、改めて平時からの備えや、状況に応じた適切な避難行動をとることの重要性を認識したところである。 中でも、水害時の避難については、指定避難所や親戚・知人宅、近隣の安全な場所へ一時的に避難する「水平避難」や「分散避難」の行動に加え、夜間や急激な降雨により屋外に出るとかえって危険な場合には、建物の２階以上へ避難する「垂直避難」が推奨されている。 本市においては、ご家庭に配布している「わが家の防災マニュアル」や「洪水ハザードマップ」、「内水ハザードマップ」等の冊子に、平時からご自身の避難先や避難行動を整理しておく「マイ・タイムライン」を掲載し、その作成を促すなど、速やかな避難行動につながる事前の備えの重要性について、広く周知を図っているところである。 こうした中、富士川地区の指定避難所である富士川悠遊館をはじめとする市内６０か所の指定避難所については、各地区の避難所運営委員会の皆様に中心的な運営の主体となっていていただくが、災害発生時における住民の避難先については、居住する地区に限らず、誰でも避難できることを前提としながら、避難所が避難者で満員となり受け入れ困難となった場合には、災害対策本部などにおいて他の避難所の受け入れ状況等を勘案しながら、市内の別の避難所へ移動していただくこととしている。 また、本市では、民間企業等の施設を一時的な避難先として活用することができるよう、災害協定の締結に向けて努めているところである。 今後においては、日中の就業者が多い富士川地区の実情などを踏まえる中、富士川地区自治会連合会の皆様と連携を図り、「地区防災研修会」や「防災に関する出前講座」などを時宜に応じて開催するとともに、富士川地区の皆様のご意向を伺いながら、災害発生時における避難所運営がスムーズに行えるよう、共に考えていくので、皆様のご理解とご協力をお願いする。
-------	---

質問	・甲府城東側エリアの魅力向上について 先ほどたくさんの方のことを説明していただいて、甲府市ではこんなに素晴らしいことをやっているのだと、日々生活しているとここまでのことは分からなかったのでもいい機会であった。 交流と賑わいを創出するという点で言うと、昨年、こうふ亀屋座と小江戸甲府花小路がオープンし、甲州夢小路を含め、甲府城を中心とする魅力的なエリアがつながり始めているように感じる。 さらに、舞鶴城公園では小江戸甲府の夏祭りをはじめ各種イベントが催され、地域の賑わいや魅力づくりに貢献している。 富士川地区は甲府城東側に位置していることから、甲府城東側エリアにおいてどのような魅力を高める取組があるか聞きたい。
産業部長	甲府城の石垣をはじめとする歴史的資源を有する甲府城東側エリアの多様な魅力をさらに高めていくためには、周辺のまちなみを眺めながら、買い物や飲食などのまち歩きを一体的に楽しめるよう、エリアの価値を磨き上げていくことが重要であると考えている。 昨年オープンした「こうふ亀屋座」や「小江戸甲府花小路」は、まちなかに新たな賑わいと魅力を生み出す交流拠点として、多くの皆様に訪れていただいている。 また、甲府城東側エリアに位置する「市道橋東線」等においては、甲府駅北口の「歴史公園」・「甲州夢小路」と甲府城南側の「こうふ亀屋座」・「小江戸甲府花小路」間における人の流れをさらに生み出す取組として、このエリアを来訪される方の回遊ルートとなる歩道の高質化を図るなど、甲府城に調和した雰囲気づくりを進めているところである。 こうした新たな人の流れや地域の変化を受け、民間事業者による甲府城東側エリアへの出店も見られており、城下町の歴史的な雰囲気を大切にしながら、現代の魅力を取り入れた店舗の展開が、まちなかのさらなる回遊性の向上につながるものと期待している。 今後においても、民間をはじめとする多様な主体と積極的に連携し、甲府城の石垣をはじめとした歴史資源や城下町の魅力を最大限に活かしながら、訪れた方が歩きたくなるまちづくり

意見	を推進していく。 人が動いて活性化が図られるようなまちになって良いと思う。自治会が行政とコラボして、自治会が行政を後押しするのがとても大事だと思うし、一方で、なり手不足で自治会運営が立ち行かないということもある。 先ほど説明があったように、高校生とか大学生との協働ということも積極的に進めてもらいたい、それとは別に、公務員の皆様が率先して自治会活動その他の地域の活動に参加することが、甲府市の中での評価につながる事が大事ではないかと思っているので、よろしくお願いします。
質問	・地球温暖化への対応について 昨今問題となっている地球温暖化について、甲府市の最高気温もおそらく今年は40度超えとなるだろうという予想がされている中で、甲府市が考えている対策を知りたい。各論は出てこないと思うが、市としてどのように考えているか。
産業部長	甲府市では、「地球温暖化対策実行計画」を策定し、市役所全体で、全庁的に温暖化を意識した取組、いわゆる脱炭素に向けた取組を進めている。 市の事業として進めるものに加え、地域の皆様のご理解をいただく中では、ごみの減量化もその一つである。 また、企業の皆様においても、事業活動の中で二酸化炭素を排出することから、脱炭素に取り組むことが必要であり、市で専門家を招聘したセミナーを開いたり、企業活動の中でどのように脱炭素に取り組むことができるかを支援する事業を、今年度から始めるよう準備を進めている。 さらに、「こうふグリーンラボ」という施設を上町に設置しており、山梨県でも推進している水素をはじめとする次世代エネルギーを、市民生活の中でどのように活用できるかという実証実験も始めている。 今後も、こうした脱炭素に取り組む事業を市民の皆様へお伝えしつつ、教育の中でも環境教育として、教育機関と連携しながら、水素などの次世代エネルギーについて子どもたちの理解を深める取組を進めている。

意見	引き続き、こうした取組を力強く推進していく。 例えば、コンクリート敷にするのではなくて砂利敷にして雨水を浸透させるなど、個人の家でもできる対策があると思う。ぜひそういう事業を進めながら日本で一番暑いまちから、涼しいまちになるように取り組んでいただきたい。
質問	・自治会活動継続支援の体制について 現在、和戸町竜王線の整備が進んでいるが、道路用地買収によって転居した住民が増え、自治会の維持が厳しい状況にある。また、道路整備によって自治会が分断されてしまい運営方法が変わってきてしまっている。これらのことにより自治会活動の継続が難しくなっている状況の中で、市としてどのような対応や助言、支援があるのか。
市民部長	昨今は、道路や河川などのハード整備の要因だけでなく、人口減少や少子高齢化といった社会背景の中で、担い手不足が進み、自治会をいかに維持・継続していくかが大きな課題となっている。 本市としては、まず短期的な取組として、自治会活動の負担軽減に取り組んでいる。例えば、デジタル化を進めることで、自治会活動に携わっていただいている方の事務負担を軽減していくこと、また担い手の確保という点では、企業や学生と連携し、地域活動への参加を促すとともに、地域のイベント等の企画立案にも関わっていただく体制を整えているところである。 一方で、中長期的な視点では、富士川地区でも昨年、1つの自治会が担い手不足により解散したという実情もある。そのため、隣接する自治会との合併なども視野に入れて考えていく必要があると考えている。 合併ということになると、集会所をどうするか、自治会の運営費をどうするかなど、解決すべき課題も多く、自治会の皆様だけでは解決しきれない部分もある。 本市としては、自治会の合併に関するマニュアルなどをはじめ相談体制を整えているので、すぐに合併という話ではなくとも、早い段階でご相談いただき、一緒に考えていきたい。 人手が足りずに自治会活動が苦しいということであれば、す

樋口市長 (まとめ)	ぐに自治会を解散するのではなく、まずは市役所にご相談いただければ、私どもの持つノウハウで解決できることもあるかもしれないので、まずはそうした第一歩を踏み出していただきたい。 本日は長時間にわたりありがとうございました。 いただいたご質問、ご意見はしっかりと持ち帰り、今後の取組に活かしてまいりたい。 また、和戸竜王線整備によって自治会が分断される状況というのは隣の琢美地区でも発生しており、ご相談いただいて対応している状況であるので、こちらに関しても、ご相談いただければこちらからシミュレーションを示す等の対応ができるので、一緒に考えさせていただきたい。 また、地球温暖化対策についても、対応を行っていくものであるが、ほかにも様々な分野で課題やご意見があるものと承知している。総合計画は最上位計画であり、この下に地球温暖化対策実行計画や高齢者福祉計画、子育て支援計画など、各部局の施策・事業ごとの計画があるので、気になる点があったら、自治会連合会を通じて、あるいは直接でも構わないので、お気軽にお尋ねいただきたい。 今後も、皆様と一緒に対応策を考え、進めてまいりたいので、よろしくお願い申し上げます。
地区からの挨拶要旨	
富士川地区自治会連合会会長	本日は、樋口市長をはじめ各部長にお集まりいただき、また第七次甲府市総合計画の説明会を開催していただき、ありがとうございました。 本日いただいた5つのご意見・ご質問については、私自身も大変参考になったので、今後の地域活動にも活かしていきたい。